山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第21号（2006. 3）

能動的夢分析における不在者質問の意義

名島　潤慈

Significance of the Absentee Question in Active Dream Analysis

NAJIMA Junji
(Received January 10, 2006)

キーワード：夢　能動的夢分析　不在者質問

Ⅰ　本稿のねらい

筆者はこれまで能動的夢分析において用いられるさまざまな質問を考案・吟味・検討してきた。それらは具体的には、①夢素材連想質問、②全体感想質問、③夢ポイント質問、④伝達ー警告質問、⑤夢関連性質問、⑥対応性質問、⑦潜在感情質問、⑧抽象性質問、⑨対提示質問である（名島, 1999, 2003）。①から④までが一般的介入、⑤から⑨までが特殊的介入である。これらの質問の目的は、夢主自身が夢の意味を自分で発見できるような環境をセラピストが質問という形で能動的に整えてあげることにある。実際の臨床場面ではこれらの質問のいくつかを組み合わせて用いることが多い。ただし、①の夢素材連想質問と②の全体感想質問はどの夢に対しても用いる基本的な質問である。①と②に対する夢主の連想がきわめて有益なものであればこの二つのもの以外の質問は必要ではなくなるが、実際の臨床場面ではそういったことはあまりない。

ところで本稿では一つの新しい試みとして「不在者質問」を提唱し、その臨床的な意義について吟味してみたい。ここで言う不在者質問とは文字通り、クライエントの夢のなかに現れてこない不在者についてセラピストが問う質問である。筆者は長年夢分析を行っているうちにこの不在者質問の重要性に気づくようになった。分類としては特殊的介入の一つとなる。

Ⅱ　不在者質問と不在者質問の意義

1．不在者質問の例

夢のなかの不在者について問いかける質問の例としては、以下のようなものがある。

＜このところあなたが報告された一連の学校の夢にはあなたの級友ばかりであなたの担任の姿が出てきませんが、このことについてどう思われますか＞＜あなたの夢に家族が出てきた場合、それはいつもあなたとあなたのお母さんのセットばかりで、そこにはお父さんが欠けているようですね。このことについてどう思われますか＞＜あなたの夢のなかにはお父さんにしろ友だちにしろ男性ばかりで、女性がまったく出てきませんが、このこと

についてどう思われますか＞＜最近のあなたの夢のなかにはあなたとお母さん、あるいはあなたとお母さんとお父さんといった組み合わせですが、あなたの弟さんの姿がまったく出現していませんね。このことについてどう思われますか＞など。

この不在者質問はより正確に言えば、①不在者の指摘と、②ある特定の人物が不在であることについての夢主の感想を問う質問とを組み合わせたものである。ちなみに、夢の自己分析を行う場合にはセラピストがいないので、夢主としては意図的に、＜私が見たこれら一連の夢のなかに登場していない人物は誰なのだろうか＞といった形で自分自身に問いかけてみることになる。

2．不在者質問の特性

不在者質問はどれか単一の夢について行うことは可能である。しかし、夢主が関わっているすべての重要人物が単一の夢のなかに出現するといったことはまず考えられないので、どれか単一の夢について不在者質問を行うことは意味がない。

不在者質問はいくつか複数の夢をひとまとめにした形で行うほうが妥当である。そのため、不在者質問は夢関連性質問と関係してこよう。もっとも、夢関連性質問そのものは例えば＜今日あなたが報告された夢は以前にもありました。ただ、以前の夢ではあなたが家族と一緒にドライブしているところを津波が襲ったのですが、今回の夢ではあなたが１人で海岸を散歩しているときに津波に襲われましたね。このような違いについてどう思われますか＞といった形で夢と夢との関連性、つまりある一つの夢と別のある夢との共通点ないし相違点について問うものであり、いくつかの夢をひとまとめに通観して、それらの夢に登場してこない人物について問う不在者質問とは異なってくる。

不在者の指摘は、クライエントの覚醒時の生活場面についてセラピストが有する知識に基づいている。そのため、不在者質問を行うには、セラピストがクライエントの覚醒時の生活場面における対人関係の様態などについて予め知っておくことが必要となる。

3．夢のなかの不在について

ところで、夢のなかの不在とはいったい何であろうか。

言うまでもなく、不在はすれ違いとは異なっている。すれ違いとはコミュニケーションの食い違いであり、夢としては例えば、夢のなかに夢主の父親の手紙が出てきて、そこには、「お前の宛先が間違っていた」という父親の言葉が書かれているといった類のものである。あるいは、自分以外の家族は皆磨りガラスの入ったドアの向こう側にいるといった類のものである。

不在者とはそこに存在していない者である。不在者はしかし、不在であることによってその存在意義を逆にアピールしている。しかし、夢主自身はそのことに気づかないことがほとんどである。夢主の覚醒自己はどうしても、夢のなかの登場人物のほうに注目してしまうから。

セラピストとしては、不在者が不在によってその存在意義をアピールしているということに敏感である必要があろう。それと同時にまた、セラピストは、長い夢分析の経過のなかでその不在者がいつどのような形で出現するかということにも敏感である必要がある。

それにしても、夢自己はなぜある特定の人物をわざわざ不在にさせるのであろうか。

一番目の理由としては、その人物がさしあたって特に取り上げるに足らない人物、つま

り夢自己にとってさほど重要ではない人物、あるいはいまだ重要となっていない人物であるということが挙げられよう。

二番目の理由としては、その人物が実は夢自己にとって大変重要な人物であるがゆえにわざわざ不在にされているということが挙げられる。夢イメージは、基本的にはメタファー(隠喩)である。夢のなかの顕在感情と潜在感情の例に見られるように、夢には、現されているものと隠されているものとの二重性がある。より正確に言えば、夢自己は現しつつ隠すといった手の込んだ操作を行う。しかし、夢自己はいったいなんのためにそうするのか。基本的にはそれは、Sullivan (1954) の言う「安全感を確保するための作戦(security operation)」であるように思われる。先ほどの顕在感情と潜在感情の例で言えば、夢主が夢のなかで感じとっても不安を惹起することのないような感情(例えば恐怖)が夢のなかで体験されるのであるし、その一方、夢主が感じれば不安を抱かざるを得ないような感情(例えば嫉妬とか劣等感覚)は夢イメージのなかに隠喩的表現の形で隠されるのである。隠されている感情はこの場合、夢主にとって体験されていないという意味では一種の不在者となっている。これと同じように、夢主にとっては重要であるが故にその人物の存在意義を正面から吟味しようとすると夢主の安全感がひどくおびやかされてしまうような人物が夢のなかでは不在とされてしまうのである。

4．不在者質問の意義

不在者の存在をセラピストが夢主に指摘して夢主の感想を求めるということは、何よりも夢主の意識を不在者へと差し向けるものである。

不在者質問はまた、セラピスト自身の意識をも不在者に差し向けるものである。クライエントに対してすぐに不在者質問を行わない場合でも、セラピストとしては、不在者質問というカテゴリーがあることによって不在者のことを常に念頭に置いておくことができる。例えば、＜なぜこのクライエントの夢にはいつも母と子の組み合わせばかりが出現して父が不在なのであろうか。それはクライエントにとっていったいどのような内的意味があるのだろうか＞といった形の疑問を持つことができよう。

Ⅲ　不在者質問の問題点

1．不在者を取り上げる基準

不在者質問に関する1番目の問題点としては、どのくらいの数の夢、あるいはどのくらいの期間の夢をひとまとめにして、それらの夢のなかに登場してこない人物を取り上げるのかということがある。この点についてはあまり明確な基準はない。大まかに言えば、数週間から数か月にわたって報告された夢というのが一つの基準となろう。

2．不在者の指摘について

不在者質問の2番目の問題点としては、セラピストが特定の不在者を指摘するところにある。この場合、想定される不在者が何人にもわたるときには、それらのなかのどの人物を選定するのかという問題が出てくる。もしも選定が恣意的になるおそれがあるような場合には、セラピストとしては特定の不在者の指摘ではなくてもっと漠然とした形の質問、例えば、＜あなたのこれまでの夢のなかで誰か欠けている人はいませんか＞といった形の

質問を行うほうがよいかもしれない。

3．クライエント自身が夢のなかの不在者の存在に気づいている場合

クライエントのなかには、「1年前に死んだ夫がなかなか夢に出てきません。夫以外の人たちはよく夢に出てきます。私はぜひとも夫に会いたいのに」などと述べる人がいる。このような場合、クライエント自身が自分にとっての重要人物が夢のなかでは不在であることを強く意識している。不在であることを強く意識しているのにその人物は夢のなかに現れない。このことをどのように考えたらよいものか。

一つ考えられるのは、日常生活においてクライエントの覚醒自己がたえず亡くなった重要人物のことを考えているがためにクライエントの夢自己としてはその重要人物をわざわざ夢のなかに登場させる必要がないということである。

もう一つ考えられるのは、クライエント自身が重要人物からの支えをいまだ本心から必要としていないということである。その場合、クライエントが生の困難さに直面してどうにも乗り越えることがむずかしいような状況に立ち至ったとき、重要人物が夢のなかに出現してクライエントを励ましたりアドバイスを与えたりしてくれることが少なくない。夢の主要な機能が告知であり警告であることを考えると（名島, 2003)、告知・警告の時期が来るまでは重要人物は不在のままでありつづけよう。

Ⅳ　おわりに

筆者は本稿において不在者質問の特性・意義・問題点などについて吟味した。筆者の知る限り、不在者質問はこれまでどの夢分析家によってもなされたことがない。本稿は不在者質問に関する臨床的素描にすぎないが、その重要性からみて不在者質問のあらましをここに記しておいた。

文献

名島潤慈　1999　夢分析における臨床的介入技法に関する研究　風間書房

名島潤慈　2003　臨床場面における夢の利用―能動的夢分析　誠信書房

Sullivan, H. S. 1954 *The psychiatric interview.* New York: W. W. Norton & Company Inc. 中井久夫・松川周悟・秋山　剛・宮崎隆吉・野口昌也・山口直彦訳 1986　精神医学的面接　みすず書房